

# 小学校家庭科における生命の教材化(第4報)

—授業実践例を通して—

The Teaching of the Concept of "Sex and Life" in Elementary School Home Economics Class (Part 4): Examining and Evaluating the Teaching Practice

木村輝子 高橋類子 木村節子  
Teruko Kimura Ruiko Takahashi Setsuko Kimura

This paper reports the results obtained through the teaching of the concept of 'sex and life' in elementary school home economics class. The following are some of the results:

1. After an hour's lesson on "my relationships with other members of the family when I was still in my mother's womb", the children reported that they could understand their relationship with their father more clearly.

2. Their recognition of the relations among the parents and the other family members contributed to the enhancement of their awareness of the roles and divisions of family chores.

3. After an hour's lesson on the effects of the foods different in chewability on the jawbone arches and dentitions, the children realised the importance of the relations between the food and their teeth for human survival, thereby proposing suggestions on the cooking of food to their mothers.

## 1. 緒言

生命は、各個人の一つの生命が、親からつながり、更に子へと連続性をもっているものであり、生命を大切にしたいという願いは、教科を超えた人類一般のものであろうと考える。小学校家庭科における性や生命の概念の教育が、家庭科の目標を達成するために有効であると考え、教材化を試みた。

第1報<sup>1)</sup>に述べたごとく、生命概念を規定し家政学が追究しようとしているものが、「家族を中心とした家庭生活の価値を認め、家庭生活を基礎とした人間生活の充実・向上である」を、念頭において小学校家庭科教育指導内容を構成した。

性や生命に関する概念の教育・教材化として考えられる指導内容は、まず一般的に解釈されている指導要領の内容を各領域・単元毎に「目標」「知識・理解」「技能」「態度」の4項でおさえ、著者らが生命の教材化として考えた指導内容を一般的解釈と区別し、12単元・19ヶ所を波線枠で示した。本報ではその中の「住居・家族」と「食物」の2領域、2単元を授業実践例として報告する。

## 2. 方法

### I 学習指導要領の見直しと単元づくり

家庭科は、家族の一員として家庭生活の中に営まれている人間関係に目を向け、家族と協力してこれまでの家庭生活のあり方を、見直し続けていけるような単元づくりをすることで、生活を処理

する能力を身につけることのみをねらうのではなく、子ども達の追求を大切に、一人ひとりの子どもにふさわしい教材を選定し、子どもの成長を願った教材を工夫することに留意した。

## II 授業実践の方法

- 1) 対象：新潟大学教育学部附属長岡小学校 S57年度 5年1組 男児17名 女児19名 計36名  
S58年度 6年1組 上に同じ
- 2) 期日：各年度の5月中旬
- 3) 授業内容：「わたしたちの家庭」…S57年度 「毎日の食事を見直そう」…S58年度
- 4) 授業者：木村輝子
- 5) 教材・資料作り：「わたしたちの家庭」 「毎日の食事を見直そう」
  1. 保護者からの手紙 1. VTR「食事と子どもの健康」
  2. 生いたち年表 2. かみにくさの違う食物
  3. 父親の声 3. 記入用紙
  4. 胎児のようす

### 3. 授業実践

#### 単元「わたしたちの家庭」での実践 5年1組

##### 1 学習指導要領の見直しと単元づくり

現在、小学校の家庭領域は、住居と家族が抱き合わせの扱いである。しかし、目標では「～とともに」という並列の表現がなされていることから、衣・食・住などに関する基礎的な知識を習得させることと、家庭生活に対する理解を深めることを並列でねらっていると考えた。本単元では、家庭の仕事を扱うことになっているが、子どもには今まであたり前に思っただけで見過したり、無意識に接していた家族をじっくり見つけ、愛情の結びつきや心情をくみとらせることから、自分が今家族の中でどのような位置に居るのかを自覚させることが大切であると考えた。家族の中の自分は、あたたかい家族関係の中のひとりであり、明るい家庭生活を築くひとりであることから、自分で分担できる仕事の仕方を工夫して、実践しようとする意欲を持つことができるように単元づくりをし、指導内容を図1に示した。

##### (1) 単元の目標

自分と家族のかかわり方に着目させ、家族は家族の成立以来、愛情を中心にして各々協力して、よりよい家庭生活を営んでいることを理解させ、自分も家族の一員として積極的に分担できる仕事を見つけ実践できるようにする。

##### (2) 指導計画

###### 第1次 わたしの生いたち……2時間

- わたしが生まれてから今までの家族とのかかわり
- わたしがお母さんのおなかの中にいた時の家族とのかかわり……本時

###### 第2次 家庭の仕事と家族の分担…2時間

###### 第3次 わたしの仕事……1時間

1次では家族とのかかわりについて、児童の意識を高めるために次のような構えで指導計画をたてた。1次1時では「わたしが生まれてから今までの家族とのかかわり」を知る。ここでは母とのかかわりが非常に深いことを知るが、父とのかかわりはほとんどない、父親を登場させるための有力な手段として、本時では「わたしがお母さんのおなかの中にいた時の家族とのかかわり」をもつ

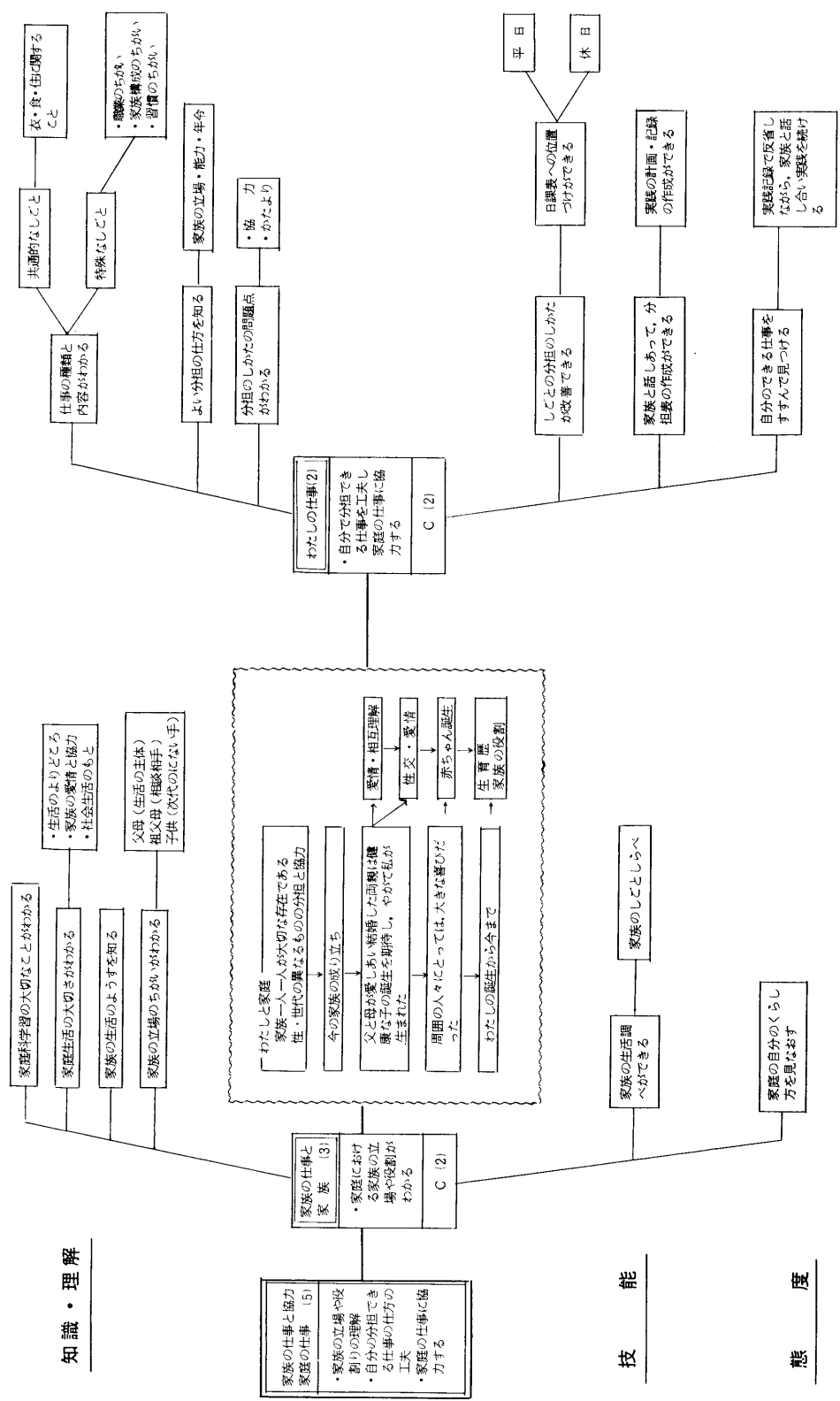


図1 5年単元「わたしたちの家族」—家族の仕事と協力—の指導内容

てきた。自分の誕生が家族のみんなにどんなに待たれ、喜ばれたかがわかる。また育児のための苦  
 労を認識させることにより家族の一員であることを自覚させることができる。このことが家族の一  
 員としてよりよい家庭生活を営もうと追求を連続させていくエネルギーとなり、自分の見方・考え  
 方・実践的態度の不十分さを見直すことが期待できた。

## 2 児童の実態を把握した生命の教材化の工夫

図2で示した5年1組の児童のS.57年5月20日付の家庭環境調査によると、自分の家族や家庭生  
 活に満足している者が多い。これは家庭で生活していることがあたり前であって、あえて自分の生  
 活のあり方を見直す必要感を持っていないということがわかる。「家族の一人と感ずることがありま  
 すか」に対し40%の子ども

は、あまり感じないで過し  
 ていると答えている。また  
 「家族に可愛がられている  
 か」では、「とても」と答え  
 ている者は20%で、あとは  
 特別意識していないで生活  
 していた。

これらの結果からみると、子どもは父母のしつら  
 えてくれる生活の中でぬく  
 ぬくと育てられており、責  
 任ある家庭の仕事を分担し

てやり通している子どもは少なく、家庭のことより勉強という考えの中で依存的に生活しているよ  
 うに思われた。そこで本時の目標を「自分が母のおなかの中にいた時の両親のようすに着目させ、  
 両親は自分の誕生を祝福し、期待してくれたことを理解させ、自分と両親はおなかの中にいた時か  
 ら深いつながりがあったことに気づかせる。」とした。

本時の展開の中に生命の教材を具体化して実践していくことを計画し、本時の指導案を表1に示  
 した。

第1分節は自分が生まれる前の両親のようすに着目して、父親は具体的にどんなことをしてくれ  
 たのかという問題をとらえ「生いたち年表」を見直し、調べてみたい動きとなると予想した。

第2分節は母親だけでなく、父親ともおなかの中にいた時から深いつながりがあったことを「両  
 親から自分宛の手紙で気づくが、友達のお父さんはどんなことをしてくれたのか聞いてみたい動き  
 になると予想した。

第3分節は「友達のお父さんへインタビューした録音」(プリント併用)を聞いて、わかったこと  
 を自分の生いたち年表につけ加えていく。

## 3 授業の実際と考察

### (1) 「生いたち年表調べ」

例1. K子のノートを表2に示した。父や家族が決めた名前は純子、名前の由来は、純粹で素直に  
 育てほしいと思って名前をつけた。しかし純子という名前の時に、体が弱かったので名前を変え  
 た方がいいと言われ名前を変えた。名前をつける名人のつけた名前は圭子、名前の由来は身体健全  
 で大きな志を持って、豊かな幸福を受け長寿を保つということで名前をつけた。こんなにまでして  
 私の幸せを考えてくれた家族に恩返しをしなければならない。後略。

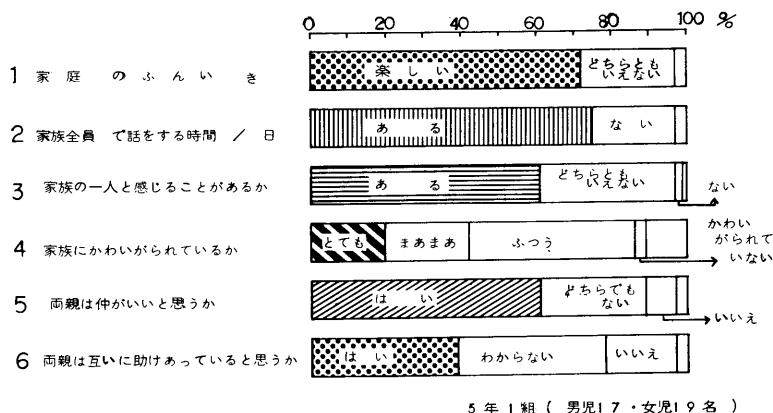


図2 家庭環境意識調査

表1 本時の指導案

分節視点	教師の働きかけと、予想される児童の反応	留意点						
<p>1. 自分が生まれる前の両親のようすに着目させ、父親は具体的にどんなことをしてくれたのかという問題をとらえる。 K子 両親とも栄養やくらし方に気をつけていたことに着目 I夫 父親も自分のためにしてくれたことがあることに着目 N夫 父親もほんとうに何かどうかに着目 (15分)</p>	<p>T1 「◎ みんなが、お母さんのおなかの中にいた時、お父さんやお母さんは、どんなことをしてくれたのでしょうか」について調べてきたことを発表して下さい。</p> <table border="1" data-bbox="473 338 816 473"> <tr> <td data-bbox="473 338 583 473"> <p>K子</p> <p>お母さんは、栄養に気をつけたり、お医者さんへ行ったり診察してもらっていたそうです。</p> </td> <td data-bbox="583 338 692 473"> <p>I夫</p> <p>お母さんは、大きなお腹だから、歩く時、ころばきのように気をつけていたんだろう。</p> </td> <td data-bbox="692 338 816 473"> <p>N夫</p> <p>お母さんは、ほくを産んでくれたけど、お父さんは、何も知らないだろう。</p> </td> </tr> </table> <p>H夫は、ほくのお母さんは太っていたから、階段ののぼりおりに、特に気をつけていたということでもI夫を支援してくるだろう。M子は、丈夫な赤ちゃんを生むために、小魚を食べたり、牛乳を飲んだりしたという事で、K子に支援してくる。K子は、H子のやさしい子どもを生みたいので、音楽を聞いたり、本を読んだりしていたという事を聞き、情懷面へ目を向けたいだろう。I夫やN夫は、友だちの具体的な母親のようすを聞いて、母親とは深いつながりがあったという考えに安定してくるだろう。S夫の、お父さんも、お母さんを車に乗せてやったという考えと、K夫の重い物を持ってあげたという発言で、お父さんも、自分がお母さんのお腹の中にいた時、何かしていたんだろうか、自分の生いたち年表を見直し、調べてみたいという動きになるだろう。</p>	<p>K子</p> <p>お母さんは、栄養に気をつけたり、お医者さんへ行ったり診察してもらっていたそうです。</p>	<p>I夫</p> <p>お母さんは、大きなお腹だから、歩く時、ころばきのように気をつけていたんだろう。</p>	<p>N夫</p> <p>お母さんは、ほくを産んでくれたけど、お父さんは、何も知らないだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生いたち年表は本単元に入る前に、ひとり調べ(家庭学習)させておいたものである。</li> <li>母親とのかかわりを、健康面、生活面、情懷面でわかりやすく板書したい。</li> <li>母子手帳で定期検診の記録を提示していきたい。</li> <li>私生活に入りすぎたり、多面的な考えか出ないいきつまりの状況の、妊娠ヘインタビューした録音を聞かせる。 &lt;B案&gt;</li> </ul>			
<p>K子</p> <p>お母さんは、栄養に気をつけたり、お医者さんへ行ったり診察してもらっていたそうです。</p>	<p>I夫</p> <p>お母さんは、大きなお腹だから、歩く時、ころばきのように気をつけていたんだろう。</p>	<p>N夫</p> <p>お母さんは、ほくを産んでくれたけど、お父さんは、何も知らないだろう。</p>						
<p>2. 母親だけでなく父親もおなかの中にいた時から、深いつながりがあったことへの気づき K子 両親とはおなかの中にいた時から、深い愛情で抱かれていたことへの気づき I夫 自分と父親は、間接的に結びついていてことへの気づき N夫 自分は、生まれる前から両親とつながっていたことへの気づき (20分)</p>	<p>T2 みんなのお父さんは、みんながおなかの中にいた時、どんなことをしてくれたのか、くわしく調べてみましょう。考えを発表して下さい。</p> <table border="1" data-bbox="473 859 816 956"> <tr> <td data-bbox="473 859 583 956"> <p>お母さんに栄養のあるものを食べなさいと言ったんだろう。</p> </td> <td data-bbox="583 859 692 956"> <p>お父さんは、どんなことをほかにしてくれたのたろう。</p> </td> <td data-bbox="692 859 816 956"> <p>ほんとうに重だにのせてやったりのかなあ。</p> </td> </tr> </table> <p>K子は、B子のお父さんかレバー嫌いのお母さんに食べなさいといっって必配していた事を聞き安定してしまうだろう。I夫は、半信半疑で具体的なことを知りたいかわからないし、N夫は、おなかの中にできないだろうという事でいきづまってしまうだろう。</p> <p>T3 これから、みんなのお家の人から、みんなにあてたお手紙を配りますから、わかったことや、みんなにも教えてあげたいことがあったら、わけも考えて発表して下さい。</p> <table border="1" data-bbox="473 1130 816 1284"> <tr> <td data-bbox="473 1130 583 1284"> <p>栄養のことだけでなく、車に乗せてやったり、重い物を持たせないようにして小さい生命を守ってしてくれたのです。</p> </td> <td data-bbox="583 1130 692 1284"> <p>お父さんは直接ではないけど名前を考えたりお守りを買ってきたりして、とても生まれてくるのを待っていてくれたのです。</p> </td> <td data-bbox="692 1130 816 1284"> <p>お父さんも、ほくが生まれてくるのが、嬉しいくて、お母さんいろいろなことをしてあげたのです。</p> </td> </tr> </table> <p>K子は、お父さんは、丈夫で大きい赤ちゃんが生まれてほしいから、お母さんに親切にしていたというH夫のわけを受け入れ見直ししていくだろう。I夫は、お父さんも、お母さんと同じように、ほくに期待してきてくれた事実を眼に向けていくだろう。N夫は、両親とも喜んでくれたという友達のを聞いて、父親とのつながりを受け入れていくだろう。</p> <p>三人共、生まれる前から、両親は、自分の誕生を祝福し、期待していたために、自分とは深いつながりがあったことに気づいていくか、「友達のお父さんは、他にどんな事をしてきていたのか聞いてみたい動きになるだろう。</p>	<p>お母さんに栄養のあるものを食べなさいと言ったんだろう。</p>	<p>お父さんは、どんなことをほかにしてくれたのたろう。</p>	<p>ほんとうに重だにのせてやったりのかなあ。</p>	<p>栄養のことだけでなく、車に乗せてやったり、重い物を持たせないようにして小さい生命を守ってしてくれたのです。</p>	<p>お父さんは直接ではないけど名前を考えたりお守りを買ってきたりして、とても生まれてくるのを待っていてくれたのです。</p>	<p>お父さんも、ほくが生まれてくるのが、嬉しいくて、お母さんいろいろなことをしてあげたのです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元に入る前に、各家庭にお願いしておいた手紙を配布する。</li> <li>この資料から、父親の具体的な行動の要因をさぐり出させ、お互いの考えのよきを見直しさせていくかわりをする。</li> <li>安産のお守りや赤ちゃんの名前の決め方の本など必要によって提示する。</li> </ul>
<p>お母さんに栄養のあるものを食べなさいと言ったんだろう。</p>	<p>お父さんは、どんなことをほかにしてくれたのたろう。</p>	<p>ほんとうに重だにのせてやったりのかなあ。</p>						
<p>栄養のことだけでなく、車に乗せてやったり、重い物を持たせないようにして小さい生命を守ってしてくれたのです。</p>	<p>お父さんは直接ではないけど名前を考えたりお守りを買ってきたりして、とても生まれてくるのを待っていてくれたのです。</p>	<p>お父さんも、ほくが生まれてくるのが、嬉しいくて、お母さんいろいろなことをしてあげたのです。</p>						
<p>3. 本時学習したことをまとめ、次時への見直しを持つ (10分)</p>	<p>T4 友達のお父さんにインタビューした録音を聞いてわかった事を、今日勉強したことと合わせながら、自分の生いたち年表の中に記入して行ってください。</p> <table border="1" data-bbox="473 1574 816 1690"> <tr> <td data-bbox="473 1574 583 1690"> <p>具体的なかわりの一つひとつをていねいに記入していくだろう。</p> </td> <td data-bbox="583 1574 692 1690"> <p>父親の具体的な行動に注意を向けて記入していくだろう。</p> </td> <td data-bbox="692 1574 816 1690"> <p>かんたんにまとめて記入するだけだろう。</p> </td> </tr> </table> <p>T5 次の時間は、家庭の中の仕事に目を向けて、みんなと家族のつながりを調べていきましょう。</p>	<p>具体的なかわりの一つひとつをていねいに記入していくだろう。</p>	<p>父親の具体的な行動に注意を向けて記入していくだろう。</p>	<p>かんたんにまとめて記入するだけだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の気になった事や、帰宅して聞いてみたいことなども録音から見直ししていくかわりをする。</li> </ul>			
<p>具体的なかわりの一つひとつをていねいに記入していくだろう。</p>	<p>父親の具体的な行動に注意を向けて記入していくだろう。</p>	<p>かんたんにまとめて記入するだけだろう。</p>						

表2 K子の生いたち年表より

	S49	S48	S47	S46
6 10	6 3	4 1	12 1	8 1
			6 1	10 8
			7 12	5 3
			3 3	12 10
			12 13	12 10
				3
私	弟私	家私	私	私
	母	母	父	母と
かえる。「けいこ(圭子)」に	身長52cm	体重3850g	生まれる	保青園に入園する
			家がでける	15まで
			「はじめての海外旅行	
			(ハワイへ行く	
			(新しくのため)	
			家をこわす	
			はじめて2~3歩歩く	
			(1か月位)	
			東京の病院へ入院する	
			初めて歩行器で歩く	
			記念写真をとる	
			おひな様の前で	
			名前は純	
			市役所に出生届を出す	
			病院から退院する	
			身長49cm	
			午後1時25分生まれる	
			体重3200g	

例2. S子のノートには「ポットでやけどをしたり、ひじの関節をはずしたりして、ずい分小さい時は心配をかけたようだ。これからはけがや病気をしないようにして心配をかけるようにしたい。」と、記されていた。その他の子どもの生いたち年表にも、真夜中に医者へ連れて行ってもらったことや、一晩中お母さんにおんぶされていたことなどが記されていた。

子どもの生いたち年表に対する考察は、親に対して「あれもほしい」

「あそこへも連れて行ってほしい」など、わがままいっぱいであったが、生いたち年表を作成しているうちに親孝行しなくてはとか、心配かけないようにしようとか、感謝しなくてはという気持ちをもち、家族とのかかわりについて関心は高まってきた。父母がふだん忙しくてあまり親子の会話がなかった子どもたちにとって、ふれあいの機会がもてたようであった。しかし、ここでは母親と自分とのかかわりに目を向けている子どもがほとんどで、父親と自分とのかかわりに目を向けた子どもは少なかった。

(2) 両親から自分宛の手紙

子どもが、お母さんのおなかの中にいた頃どんなことをしてもらったのか、特に父親とのかかわりを知らせてほしいとお願いした両親から、自分宛の手紙を読んでいる情景を写真1に示した。ふだん一諸に生活している両親が、我子宛に手紙を書くという機会はありませんことや、母子家庭もあるので、授業担当者からお便りや電話などで連絡をとりお願いをした結果、全員の父兄が協力してくれた。未熟児で生まれたM子の手紙を図3に示した。誕生時の不安や「死ぬんじゃないよ」と書かれている手紙を読み、M子はそっと目がしらをおさえていた姿が印象的であった。両親からの手紙を見たあとのY子のノートには、「私が生まれる前から父や母の心配や、気をつけてくれたことが多くてびっくりした。父や母がやさしくて落ち着いた子が生まれるように祈っていたのに、あまり効果がなかったようだ、これからは少しは気をつけたい。」と記されていた。



写真1 手紙を読んでいる子ども達

Mちゃんへ  
 普通の赤ちゃんより2か月も早く生まれ、しかも1400グラムしかなかった小さな女の子。ママもパパもそれはそれは大変心配しました。病院の先生に「この子は助からないかもしれないから、あきらめてください。」と言われた時、ママはベッドの中で泣いてしまいました。ところが、一日と過ぎていくうちに、先生が看護婦さんにひそひそ話をしているのを聞いてしまったのです。「まだお母さんに話してはいけないけど、この子はすばらしい生命力をもっているんで助かるよ」とおっしゃっていたのです。ママは天にも昇る気分です。こんどは毎日そっと病院の育児室へあなたを見に行きました。まだ普通の赤ちゃんよりはずっと小さいけれど、元気に手足を動かして、保育器の中で泣いていました。「ガンバレM子、死ぬんじゃないよ!」と、心の中で祈っていました。(中略)  
 パパは、M子の名前を決めるのに本を買ってきて、画数を考えたりして名前をつけました。安産のお守りを有名な神社からとりよせてくれました。カルシウム補給のため、小魚を川へとり行って食べさせてくれました。一番心配してくれたのも喜んでくれたのもパパです。M子はパパが大好きで性格もよくにっています。  
 ママより

図3 母親からM子にあてた手紙

この時点で、子どもからどうしてお母さんが栄養をとると、おなかの中の赤ちゃんが大きくなるのかという疑問がでてきたので、副教材として用意していた図4のT Pシートを提示した。模式図的に示してはあるが子どもに、偏光板を廻して動きを通して、母と子の結びつきを「ヘソの緒」でとらえさせることができた。

### (3) 友達のお父さんへ、インタビューした録音を聞く

自分と父親とのかかわりは自分宛の手紙である程度は理解したが、友達のお父さんはどんなこと

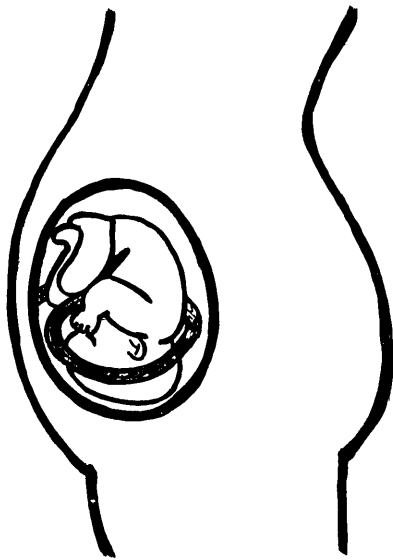


図4 胎児のようす模式図

「お父さんは、お母さんのおなかの中に赤ちゃんができたお知らせされた時、どんな気持ちでしたか。また、お母さんに対して、どんなことをしてやりましたか。」

Aさん

「赤ちゃんができてわかった時は、とにかくうれしかったですね。『おれも、とうとうお父になるんだ』と、パンザイをしたような気持ちでした。でも、生まれてくるまで、いろいろ心配なことがありましたよ。」

やっぱり一番心配したのは、食べ物のことですね。初めのころは、つわりでむかむかすると買って、昼と夜食べないものですから怪しみに困りました。食べなければおなかの赤ん坊に栄養がいかなくて、大きくて丈夫な赤ん坊が生まれてこないわけですからね。しばらくして、もりもり食べるようになりましたが、骨や歯が丈夫な子になるようにと思って、あまりすきでない小魚や牛乳をとるように注意しました。」

Bさん

「うちでは、貧血がひどく入院させられた時は、毎日レバーを買って見舞いに持って行きました。そのほか、けがや病気にもずいぶん気がつかれました。夏の暑い日に、ちょっと無理をして暑と汗を流し、流産しそうになり入院した時は、心配で毎日つとめの餅りに、病院によってはげましてやりました。」

また、階段や坂道を歩く時も、大きなおなかをしてほらないように、手をかしてあげたりしましたし、運転なんかも、事故を起こすと大変だから、させないようにして、私がのせてやって、送り迎えをしました。」

Cさん

「そうですねえ、胎教っていうのでしょうか。いい音楽を聞きにいったり、レコードを買ってやったりして、やさしい子が生まれるように、いつもいらさせないように気をつかいました。」

また、生まれるところが近づいてくると、名前をいろいろ考えましたね。本を買ってきていろいろ調べたりして。」

さらに、安産を祈って、柏崎の近くの『よなひめ神社』におまいりに行って、お守りをもたらしてきました。とにかく、五体満足の子が、ぶじに生まれてくるように祈りました。」

図5 一父親の声一

をしてくれたのだらうという追求へ向った時に提示した録音の内容を5図に示した。

ここでは、母親だけでなく父親と自分は生まれる前から、かかわりがあったことを理解し、自分宛の手紙の内容を更に深めていくことができた。母親だけでなく父親も栄養的な面で協力してくれたこと、命名の本を買ってきて調べてくれたこと、安産のお守りをもたらしてくれたこと、重い物を持たせないようにしてくれたことなど、具体的なかかわりを理解していった。そして、父と母がいろいろな面でいたわり合って、自分の誕生を待っていてくれたことに気づいていった。

### (4) 授業後の子どもの変容

本時の学習をきっかけに、子どもは少しずつ自分の家庭生活を見直し改善しようとするようになってきた。2次、3次と学習を進めていくうちに、自分の1日の生活をすべて洗い出し、今まで家族の誰かにやってもらっていたことの代わりに自分で出来ることを見つけ出し、一人ひとりが1日の生活プログラムを作成した。そして実行の仕方を自分なりに工夫する姿が見えてきた。1週間ずつの実行表に○・×をつけようとする子、忘れてしまいそうだからといって、ポスターを作り目立つ所へはった子、家族全員に宣言したから約束は破れないという子など、自分の家庭生活に合うよう各自工夫し努力して、「わたしの仕事」を実行に移していくようになった。

今まで家庭の仕事は母親がやって当然であると考えていて、頼まれるからお手伝いをしてあげると考えていた子どもが、家族の一員として家庭の仕事を分担しようと考えを変えてきたのである。

教育の営みはその効果を即効的にしかも明確に判定することが困難であるという特性があるので、毎日の実践結果をくわしくデータで示すことはできないが、5年生から生命の教材化を実践しているS58年の6年生と、S57年の6年生の意識を比較した1部「男女の愛情・ことばの印象」を図6に示した。

「男女の愛情」という言葉の印象から、「仲がよい」と感じた子どもが4.5%増加し、「いやらしい」と感じていた子どもが、1年経過して42.8%から11.5%に減少した。「思いやり」「いたわり」は、S57年度の6年生より10.6%少ないが、S57年度の5年生当時より6.7%増加した。

(5) 授業参観者の感想

授業を参観した多数の先生方から「人間の原点に立って子どもに考えさせ、予想させた点は驚きである。その結果子どもが自信を持って生き生きと家族を話し、人の話に感動しながら、共に心情的に高まった。家族愛の表現の知識なども充分にふくらませることができたのである。」と、というような感想が寄せられた。

単元「毎日の食事を見直そう」

での実践 6年1組

1 学習指導要領の見直しと単元づくり

家庭生活の中で親子を中心にした家族が互いに心を通わせる場として、食事を見直したり、成長期にある自分の健康と結びつけて、食生活を見直し実践に結びつきやすいような単元づくりをし、指導内容を図7に示した。

(1) 単元の目標

バランスのとれた栄養と健康の関係に着目させ、米とみその調理特性や栄養的特質を考えて組み合わせる食事のとり方を理解させ自分でも健康を考えた食事を整えようとする意欲を持たせる。

(2) 指導計画

- 第1次 米をご飯に変身させよう…… 5時間
- 第2次 香りと味のよしみそ汁の秘密をさぐろう…… 2時間
- 第3次 ご飯とみそ汁の調理計画を立て実習しよう…… 3時間
- 第4次 健康を考え毎日の食事の見直しをしよう…… 4時間…本時3/4時

子ども達の最も身近な食品である米飯とみそ汁をとりあげることは、実践の必然性の少ない子どもにも問題の気づきや興味を喚起させることができるからであった。また、毎日の副食へも関心がいき栄養面や食品の安全性だけでなく、自分達の好きな食べ物があごの骨の成長と歯並びへ影響することに気づいていくようになり、そして、健康的な食生活に目を向けることができると考えた。第

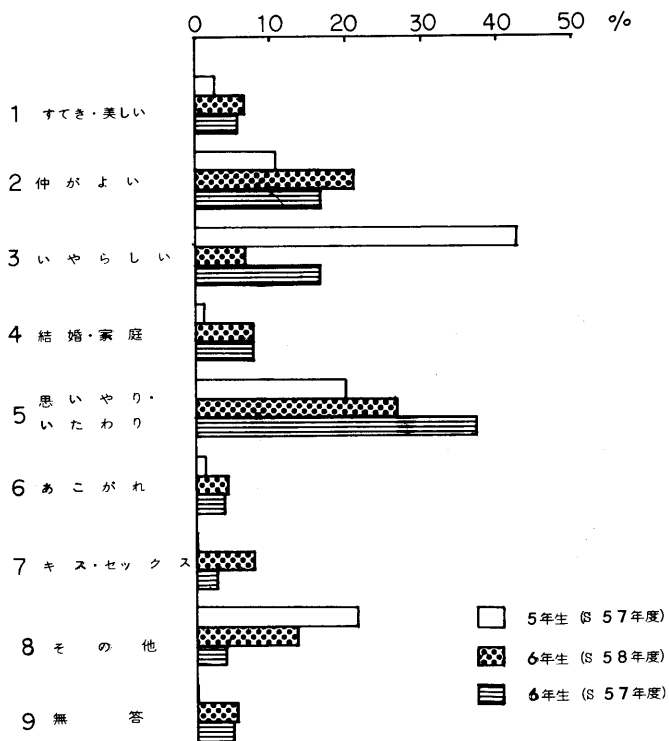


図6 「男女の愛情」ことばの印象





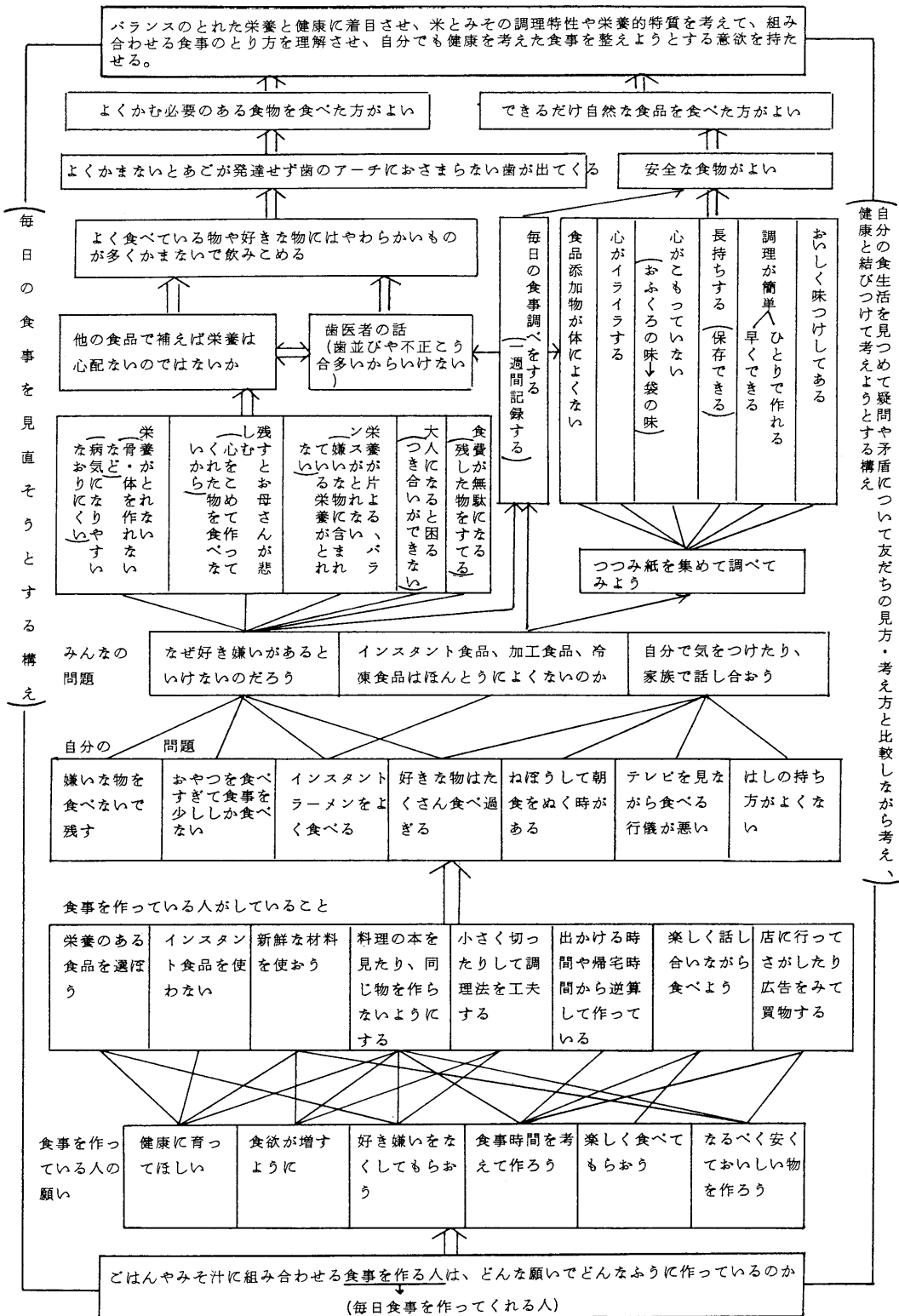


図8 6年1組「毎日の食事を見直そう」＜第4次の追求構造＞

4次の追求構造図を図8に示した。

## 2 児童の追求のようすから生命の教材化の工夫

本時の目標は「自分達の好きな食物の調理法と歯の働きに着目させ、バランスのとれた栄養を揃えても軟かい食物ばかりだと歯のアーチにおさまらない歯や、かみ合わない歯になることを理解させ、よくかむ必要のある食物を必ず食べるように食生活を見直すことができる。」とした。

本時の展開の中に生命の教材を具体化して実践していくことを計画し、

第1分節はやわらかい食物は、よくかまないでよいことに着目させ、歯がきちんと並ばなくなるのはかむことに関係あるかどうか調べてみたい動きとなると予想した。

第2分節は「かみにくさの違う食物の実物で、かむ回数とあごの動き方を調べ、やわらかい物ばかり食べているとあごが発達しないことに気づいていく。しかし、かまないことが顎骨の発達に影響し、歯のアーチを小さくし、歯の咬合や歯並びを悪くすることへの気づきはできない。そこで「食事と子どもの健康のVTR」を提示することにより、好きな食物と歯の咬合や歯並びの悪さが結びつき、人間の健康に深くかかわるという追求が深められていった。

第3分節は「食事の見直しカード」で自分達の好きな食物にはやわらかい物が多いから、かみにくい食物をつけ加える必要があるという見直しをし実践へ結びつけていく。

## 3 授業の実際と考察

### (1) かみにくさの違う食物の実物提示

子どもの追求が実際に調べてみたい方向へむいた時に、かみにくさの違う食物の実物を提示した。

提示した実物4人分を図9に示した。実験食、ハンバーグ、キャベツ、カレー、リンゴ。実験用具として、1鏡、2おしぼり、3スプーン、4はし、5ようじを準備した。

子どもは、ハンバーグ1切18回、生キャベツひと箸31回、カレー1スプーン10回、リンゴ1切21回と実際

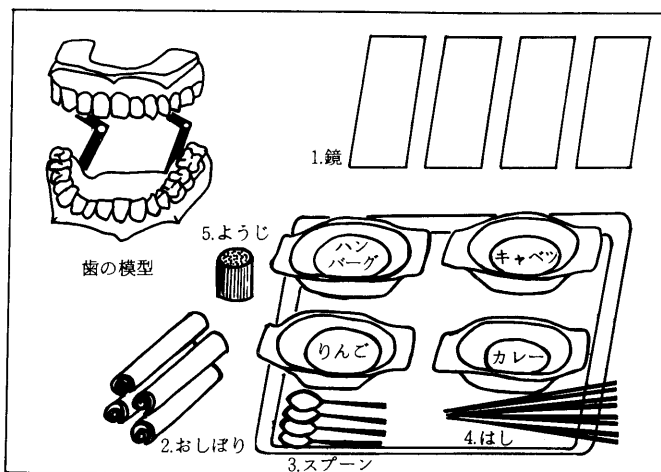


図9 提示した実物—4人分—



写真2 実験をしている子ども達

に食べてみて、かむ回数と鏡を見てのあごの動き方の違いから、かみにくい食物はあごがよく動くことを体得していくことができた。実験している子どものようすを写真2に示した。子ども達は生キャベツをかんでみて飲み込むまで意外にあごを使い、かむ回数が多いことに驚き、興味をもって取り組んでいた。

### (2) 食事と子どもの健康のVTRの提示

子どもの追求では解決できない歯のアーチへの気づきをVTRという視覚に訴える教材で提示した。このVTRはNHKの「おはよう広場」で数回に渡り放映されたものの中から6分を子どもに見せた。最近の子ども達が好んで食べる食物はやわらかい物が多いのであごが発達せず、歯のアーチが小さくなり歯が並びきれなくなるいくつかの例を、映像でとらえさせた事は

効果的であった。しかし、映像はその場で消えてしまうので、図9に示した歯の模型であごの発達と歯並びの関係を再確認させた。

### (3) 食事の見直しカード

栄養のバランスがとれていても、かみにくく、あごをよく動かす食物を付加する必要があるという気づきから、自分の好きな献立を見直し、よくかまなければならない食物を付加していった。食物をかむという学習は、その晩の食事からさっそく実践に結びつき、深まっていくと思われた。

毎日の食事は人間にとって不可欠なものであり、日々の望ましい食事の蓄積こそが健康生活につながり、人間が生きのびるために食物と歯の関係が大切であることを知り、家族に食物の調理法について要求を出すようになった。

### (4) 授業参観者の感想より抜粋

Y先生は「食事を見直すといえは短絡的にすぐ栄養面で片よりのないかを考えさせれば良いのだと考えてしまいます。しかし、現実の子どもの問題としては栄養不足より過食が問題であり、子ども

達がよく食べ、しかも好きな副食物がほとんどかまずに食べられる物であるために、口腔が正常に発達しないことである。これを今子ども達に考えさせるべきことであるととらえておられました。こうした授業者の『子どもが生きていくためにどうすればいいのかに目を向けて、教材作りを心がけている』という考えと、斬新な単元構成に深い感動を覚えました。家庭科の知識や技能を中核にすえた狭い意味での生きて働く力しか考えてこなかった私は、いま子どもに何を学ばせることが大切なのかを広い視野から考え、単元構成をしていくことの重要性を痛切に感じさせられました。』

### (5) 授業者の感想

家庭科の学習は家族という人間関係をすべての学習の土台にしながら、自分の生活のあり方をとらえ生活の基本にかかわる衣・食・住などの理解を深め、家族と協力して生活をよりよくできる方向を求め続け実践しようとする子どもをめざしている。

そのために試行錯誤のくり返しのような指導であったが、いろいろな家庭生活の中に営まれている人間関係を大切にして授業を進めてきた。高度成長の社会の中で営まれている家庭生活においては「もの」を中心とする生活の合理化・便利化がはかられており、人間としての大切な「心」の充実が忘れられている傾向が見られる。「心」の充実をはかり、家庭科で学習したことが教室の中だけで終わることなく、学校生活や家庭生活の中で生かされていくようにしたい。

以上の授業実践について著者らは相当な日時をかけて教材研究をし、『子どもたちの心をゆさぶる』授業をすることができたと確信したので、この2単元の授業実践例を「教育実践研究・小学校家庭の授業」で報告し、受講生が将来教育実習をする際の児童理解の一助とした。S.57年度、58年度2年次教育実習「教育実践研究・小学校家庭の授業」の授業案を表3に示した。受講生の反応・評価は第5報でのべる。

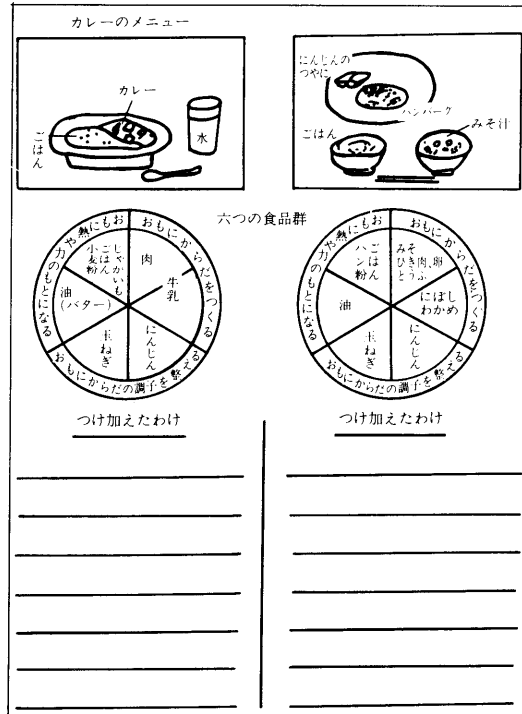


図10 食事の見直しカード

表3 2年次教育実習「教育実践研究」授業案

昭和57年度 (90分)		昭和58年度 (90分)	
時間	分節	内容	資料
9:00	1.導入	小学校家庭科の授業について ・本時のねらい 家庭生活をみつめる——子どもの実態 共通話題提示 共通教材を作る	
9:10	2.展開	1. 単元 わたしたちの家庭 5年 ——わたしがお母さんのおなかの中にいた時の 家族とのかかわり—— 2. 単元設定の理由 3. 子どもの実態 4. 授業の実際	指導案 P2~6 教えた意欲 図表 調査集計 VTR 授業風景 VTR 保護者からの手紙 子どものノート 板書のまとめ方 父親の声 胎児のようす
10:00	3.まとめ	5. 教材資料の作り方及び提示について	録音 O.H.P.
10:01	4.評価	II 家庭科の授業で実習を効果的にする実験について 1. 短時間で結果が判明するもの。 2. 操作が簡単であること。 3. 危険でないこと。 4. 実験のみで終わらないこと。 ※ 実験例 ・気温と着装実験 → 「衣服の着方と整え方」機能に応じた衣生活の工夫。 ・繊維の鑑別実験 → 「衣類の手入れ」 — 上着のせんたく。 ・汚れのとおり方実験 — 「衣類の着方と選び方」 — 下着の着方と選び方。 ・被服材料の吸水の実験 — 「衛生的な下着」 — 下着の着方と選び方。 ・ぬい方と止め方による引張強度の実験 — 「ふくろ」 — 布地や縫い箇所に応じた縫い方 ・ビタミンC検出実験 → 「生野菜の調理」 — 栄養と味つけ ・生野菜の放水実験 ・カロチン脂溶性実験 — 「野菜の扱いのため」 — 栄養 ・照度測定 — 「明るい住まい方」 — 採光と照度	
10:20	5.振り返り		反省用紙
10:21	3.評価	3.まとめ 他領域への活用・発展 4.評価 アンケート調査 かみにくさの違う食物・あごのアーチと歯ならび	アンケート用紙
10:30			
1:15	1.導入	教育実践研究 家庭科の授業計画にあたって	
1:18	2.展開	I. 授業例 1. 「知っている」から「できる」へ 2. 「エプロンやカバ―類の製作」の授業 ・子どもの知識及び問題意識 ・VTR教材の導入 ・エプロンと健康との関係 ・ある子どもの動き 3. 家庭科の学習を充実させるために II. 授業例 ——6年「毎日の食事を見直そう」—— 1. 性や生命の概念に関する教育 2. 単元設定の理由 3. 子どもの実態 4. 授業の実際 5. 体験的学習	指導案 調査集計 VTR エプロンの有無による姿勢(図表) かっぱう着の汚れ(TP) コミュニケーション分析 子どものノート ・家庭科単元一覧表 ・第6学年1組家庭科学習指導案 ・第4次の追求構造図 ・スライド「授業風景」 ・VTR「食事と子どもの健康」 ・かみにくさの違う食物 ・記入用紙 ・食事の見直しカード
1:58			
1:59			
2:37			
2:38			

#### 4. まとめ

小学校家庭科における性や生命に関する概念の教育・教材化の授業実践を「住居・家族」と「食物」の2領域2単元について試みた結果、

- 1) 現在の家族とのかかわりを見直したとき子どもと母親とのかかわりは深いことに気づくが、父親とのかかわりはほとんどわからなかった。
- 2) 「わたしがお母さんのおなかの中にいたときの家族とのかかわり」という1時間の授業を受けることによって、子どもは父親とのかかわりをより明確に知ることができた。
- 3) 母と父と家族の認識は、家庭の仕事の役割・分担への意識の高揚に役立った。
- 4) 「かみにくさの違う食物とあごのアーチと歯並び」の授業を1時間受けることによって子どもは、ヒトが生きのびるために食物と歯の関係が大切であることを知り、家族に食物の調理法について要求を出すようになった。
- 5) 授業参観者の声
  - ・生きていくために必要な実験、そして実践に結びつけていける授業であった。
  - ・子どもが生きていくためにどうすればいいのかに目を向けた教材作りの斬新さに感動した。
- 6) 授業実践について著者らは相当な日時をかけて教材研究をし、子どもたちの心をゆさぶる授業をすることができたと確信したので、この2単元の授業実践例を教育実践研究「小学校家庭の授業」で報告し、受講生の児童理解の一助とした。

#### 参 考 文 献

- 井上直彦：歯 その本来的働き。保健の科学 26 17～21 (1984)
- N H K：「おはようひろばVTR」(1983)
- 依田 明：母子関係の心理学 大日本図書 (1982)
- 松田道雄：新しい家庭像を求めて 築摩書房 (1979)
- 家 教 連：たのしくわかる小学校家庭科の授業 あゆみ出版 (1980)
- 1) 高橋類子・木村節子・木村輝子：小学校家庭科における生命の教材化 (第一報) —研究の展望— 日本家庭科教育学会誌投稿中